

業績ハイライト

2021年3月期の決算

当行単体の業績につきまして、経常収益は、貸出金利息が前期比3億21百万円増加したことや、役務取引等収益4億49百万円の増加があったものの、国債等債券売却益10億72百万円の減少を主因に、前期比3億17百万円減少し331億59百万円となりました。

経常費用につきましては、外国為替売買損が前期比5億43百万円減少したことや、営業経費が4億87百万円減少したものの、貸倒引当金繰入額が9億91百万円増加したこと等から、前期比1億51百万円増加し293億94百万円となりました。

この結果、経常利益は前期比4億68百万円減少し、37億65百万円となりました。

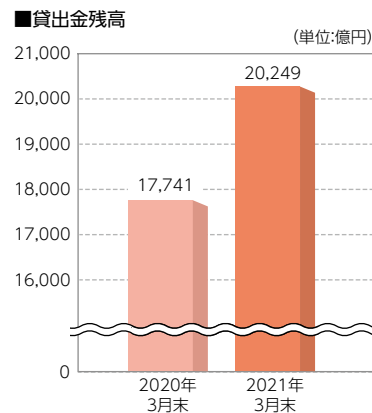
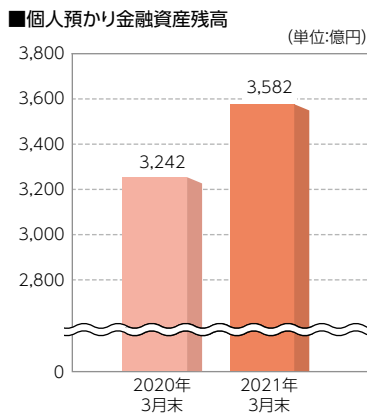
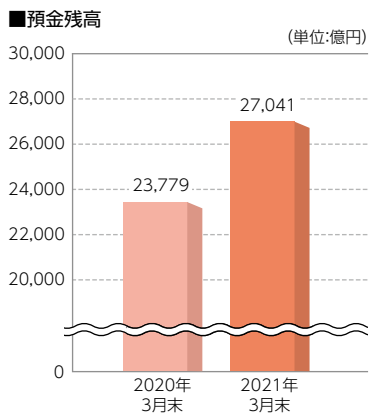
また、当期純利益につきましては、経常利益は減少したものの、固定資産処分益5億58百万円を計上したことを主因に、前期比5百万円増加し23億16百万円となりました。

なお、連結経営成績につきましては、連結経常収益で前期比2億47百万円減少の411億53百万円、連結経常利益で前期比3億89百万円減少の42億13百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で前期比24百万円増加の24億65百万円となりました。

預金・貸出金等の状況

2021年3月末の総預金残高は、個人預金が1,201億円、一般法人預金は1,356億円伸びたことで、前期末比3,262億円増加し2兆7,041億円となりました。地区別では佐賀県で2,543億円、福岡県で655億円、それぞれ増加しました。

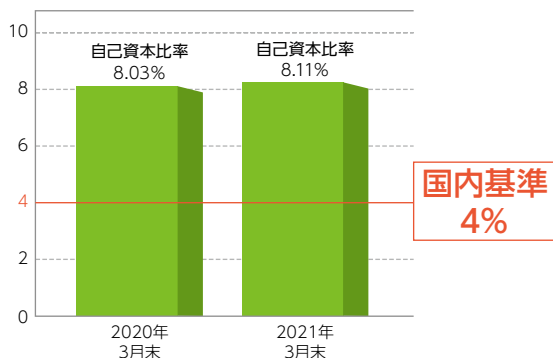
総貸出金残高に関しましても、政府系向けや中小企業さま等への貸出が増加したことで、前期末比2,507億円増加し2兆249億円となりました。



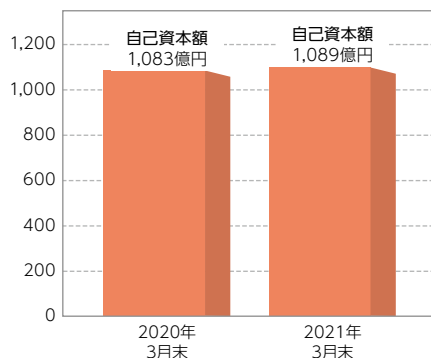
自己資本比率

自己資本比率(国内基準)は、前期末と比べて利益の積み上げ等により自己資本の増加があったことに加え、リスクウェイトの低い貸出金の増加を主因にリスクアセットの減少があったことにより、前期末比0.08ポイント増加し8.11%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



不良債権の状況

債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)の比率は、2020年3月末の2.06%が2021年3月末には2.09%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、2021年3月末で1.90%(2020年3月末では1.84%)となっております。

■2021年3月末の不良債権の状況

